

おおぎ会 歩こう東海道 57 次

“お江戸日本橋へ”

第 19 回

平成 22 年 4 月 3 日から 4 日

浜松宿・見付宿・袋井宿・掛川宿まで これが今回の旅だ。この企画の誕生には、立ち会っていないが、以後 継続され、今回で 19 回目になると思う。多年に亘るので、旅人の体力に、限界が忍び寄っているのは確か！ 出来るだけ早く、“お江戸日本橋” に立ちたいと願う。大河ドラマで、薩摩の篤姫は、“富士の山” に向かって“宜しく” 呼びかけていました。今回は 主役が代わり、同じカットを！ 勇んで出掛けたが、拝顔の榮に浴さなかった！ まあいいか “お山” は逃げないから！ 代わりに ガードレールに激突した乙女を見る！ 4 車線を横断する助っ人 心配してか？ もう少し向うの横断陸橋を渡れば！ 原因はボヤーとしていた！ との事 春だよね！ とにかく交通安全！

東海道は 1601（慶長 6）年、徳川幕府によって江戸より京都迄の 53 の宿駅を整備したが、京・大阪間には京街道 即ち豊臣秀吉が整備を行った「文禄堤」があり、当時は豊臣家が健在で、遠慮したのか、東海道の延長は行わなかった。その後 1615（慶長 20）年大阪城が落城すると、大坂（高麗橋？）まで延長し 伏見・淀・枚方・守口の 4 つの宿駅を設け東海道 57 次とし、現在に至っている。

旅人 A	細田 庄一
B	藤井 博伸
C	中山 博夫
D	木本 信男
E(記録)	足立 義明

(1 日目) 4 月 3 日 (土) 晴れ・風強し

JR 浜松 → 金原明善邸 → 天竜川橋 → 宮之一色一里塚 → JR 磐田駅

距離 12.50km (今日の歩行距離 24,700 * 70cm = 17,29km)

早朝 藤阪駅前から出発する。昨日の嵐は嘘の様、すっきり晴れ上がった旅日和 幸先よし。途中 休憩しながら、松阪市街に 連尺町・板屋町を経て、駅前のホテルに車を預け、すぐに 歩き旅に出る。時は 13 時 00 分丁度。高速通行料は、未だ 麻生首相のおかげで 1900 円と割安である。

御立ち JR 浜松 アクトシティ浜松

ホテルから、“アクトシティ”、メインの“アクトタワー”（地上 45 階・高さ 212m）、を右手に眺めながら、アクト通を北上し、東海道（R152）に、これを東に向かう。街中は、ゆったりとしている。“馬込橋”を渡る頃、少し腹が鳴りだした。もういい時間だ！ 途中“ガスト”で、鉄板ビビンバ定食、を頼む。一応腹の虫は納得した。安心して、旅に出



る時刻は14時30分 遅い 急がねば！ピッチを上げよう。 風が出てきた 向かい風！
途中 松平信祝の娘が葬られている“**梅竜禅寺**”を左手に見ながら、味気ない道を東に向
かって進む。やがて 近代的な施設“**浜松アリーナ**”が見えてきた。最大8千人を収容出
来る多目的ホールである。今日は何もやっていない。閑散としていた。ぽつん・ぽつん
と残る松並木を歩き、横羽の“**六所神社**”の赤鳥居を過ぎ、安新町より **R314** へ、 道は益々
狭くなる。

金原明善邸



金原明善の生家

先方に大きな屋敷、一寸洒落た板塀に囲まれている。“**金原明善の生家**”で、 明治元年 彼は37歳の時に私財を投げ打って、暴れ川と恐れられた“**天竜川**”の治水周辺の植林に貢献し、沿岸の開発に尽くした。又彼は教育等、多くの慈善事業を行っている。それらの資料が、道の向かい側の記念館に残されている。少し歩くと庭の綺麗な“**梅林寺**”に出会い、境内で少しの休息を取る。



天竜川橋 (橋間 912m)

やがて道は、天竜川の堤防に突き当たり、麓には、川の安寧を祈願し、“**六所神社**”が祭られ、堤防の上には“**舟橋跡・天竜川木橋跡**”の碑がある。江戸時代は船で渡っていたらしいが、明治になって此处に木橋(1163m)が作られ、通行料を取って供用していたらしい？ しかし 洪水で度々流され、修復費も賄えなかったようだ。又 明治天皇が行幸の折は、船をつないで“**船橋**”としたとの伝えもある。対岸には住宅地の中に“**天竜橋跡**”の碑があるらしい。現在は、少し上流に、3本の本橋(河口より**天竜側橋・新新天竜川橋・新天竜川橋**)が設けられ、各橋共、車がひっきりなしに走っている。専用歩道は、近年に完成したらしいが、橋までのランプは整備中、危険を承知でトラックの横を歩き、橋にたどり着く。往生しました。 旅人の事も考えて！



天竜川橋

(先陣のある旅人はバス利用されたと記されている) 風は 益々強くなってきた、帽子を飛ばされないよう手に持って橋を渡る。

宮之一色一里塚



宮之一色一里塚跡碑

橋を渡り終え、磐田市に入る。堤防上(=**R343**)を少し南進し、生コン会社の南で、堤防を下り、“**天竜川橋跡**”の碑を横目に、住宅地の中を東に向かう。“**若宮八幡宮**”を過ぎ、森下で **R261** に。“**宮之一色一里塚**”を横目に見ながら、万能橋より中泉へ・ここから市道？に入ると、今日の目的地磐田駅はもうすぐだ。

お着き **JR 磐田**

磐田駅に着いたのは、6時を廻っていました。駅の前には樹齢700年の“善導寺の楠の巨木”（目通り8,2m・樹高28m 県の天然記念物）が眼に入る。駅前にも人影疎ら！ 時間も遅いのか？ 日が長くなった。夕暮れには間がありそうだ。今日の歩きの旅はここまで。歩行数24,700歩。ご苦労様！ 電車で浜松駅に帰る。



SAから、予約しておいた浜松駅の南口すぐのホテル「サウスガーデン浜松」（朝食付いて3500円ツイン/一人）に向かう。旅装を解き、夕食には【鰻】でしょう！ 駅中の専門店 看板を見て廻る。結構いい値だ！これだと大阪でも食べられる！ 結局 蕎麦屋で、ほろ酔いセットとカツ丼定食・・・蕎麦屋の「きつね」と「たぬき」の違いを肴に夕食は進む 結論の出無いまま食事は終わり、部屋に引き上げる。風呂に入り疲れを癒しほっとする。前面の街路、割に静か、心地よい睡魔が襲ってきた。明日に備え、すぐに床に就く。

(2日目) 4月 4日 (日) 晴れ・花吹雪

JR 磐田→西光寺→見付宿 (28) →旧見付小学校→遠州鈴が森→許禰神社→御幸橋→袋井宿 (27) →どまん中茶屋→松並木→JR 愛野

距離 10,80km (今日の歩行距離 22,705 * 70cm = 15,89km)

夜中 バイクの騒音で目が覚めた。何処にでも出没するものだ 暴走族は！ 明け方迄には時間がある。トイレに行き、もう一度寝た。6時半 すっきりとした目覚め。7時にバイキング形式の朝食をしっかりと取り、ホテルをチェックアウトする。R1を見付に向かい一路東へ。磐田駅前のパーキングに車を預け、歩きの旅に出発！今日は何処まで行くのやら？ 時刻は8時半

御立ち JR 磐田 天平通り

駅前から、広い 真直ぐな大道り “天平通り” と命名されていた。未だ 朝早いのか、人影も疎ら！歩道には、沢山の“足跡”の名盤が埋め込まれていた！ 此处は“ジュビロ磐田”の本拠地、監督や選手の足型と判ったのは、通り過ぎてから！ここ見付（現在は磐田）は、古くより栄え、奈良時代には、国府が置かれ、政の中心だったらしい。やがて市役所の向うに“遠江国分寺跡”その正面に“府八幡宮”。郵便局の先で、右側道へ。緩やかな坂道を下って往く。これが当時の東海道との事。又 元の道に合流した。



西光寺

R1との交差点を過ぎ、右手に“かん木門”のレプリカと標識。此处からが“見付宿”に入る。右奥に ぽつんと門 その先に山門と大きな樺の木・此处が“西光寺”山門の上には大きな鐘が乗っていた。その先の十字路左手は“姫街道”になり、真直ぐ行けば“旧赤松家”・右手は目的の東海道・角に案内板があった。



旧赤松家

本街道より回り道になるので、立ち寄らないが、この先に赤松則良（1841～1920）の邸宅があるらしい。彼は 遺米使節団への随員（咸臨丸乗組員）や・オランダ留学により、造船技術を会得し、明治の発展に尽くしたが、見付に移住（安政大地震で地盤が強く・洪水の恐れが無いからとの事）し、1887～97 の間に建築した邸宅群である。又 磐田原大地に大規模な茶園を開拓する。これが“静岡茶”の原点かも？

見付宿(28)



本宿場は、本陣2・脇本陣1・旅籠屋56・問屋場1で、本街と姫街道の分岐点に位置しており重要な宿場であった。見付の命名は京から来て初めて 富士山が見えた場所・見つけた場所からと言われているが、定かでない。街外れに“富士見町”があるから、見えたのでは？ 宿場内の街路は、新たに街路樹も植えられ、整備され 町が、宿場の復元・観光に力を入れているのが判る。案内所は未だ開館時間前、先の“淡海国玉神社”



（写真左）に参拝する。隣の“旧見付小学校”では授業が始まっていた。この辺が、宿場の中心だ。“高札場跡”と“常夜燈”が復元されていた。信号を渡ると“御朱印屋敷・冷泉清兵衛邸”が、古き情緒をかもし出していた。中川橋の手前に、立派な東海道見付宿の“石標”が建っていた。やがて正面に 長い石段の先の小山に“愛宕神社”があり、下から目礼をし、道なりに進む。麓に東の“冠木門”の標柱と案内板がありここで宿場は終わります。

旧見付小学校

現存する日本最古の洋風木造小学校で明治5年、学制の発布に伴い寺を仮校舎として開



1 旧 見 付 学 校

磐田駅から約2.0km 徒歩約30分

明治8年に建てられた現存する日本最古の木造擬洋風小学校校舎。国の史跡に指定されています。

▶9:00～16:30

▶入場無料

▶休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日、年末年始



校した。明治8年には、町の有力者の協力により2階2層建ての校舎（写真左）が完成し、明治16年に1階を増築し、現在の形になっている。（写真右）玄関は、エンタシス様式に近似した飾り柱を配している。その後は、中・女学校、病院として使用され、昭和28年に郷土資料館として、44年には国指定史跡となり、内部では、レプリカによる授業が再現され（写真中）、しばし 私たちも一緒に授業を受ける。又 当時の生活用品や、学校関係の資料が、程、沢山展示され、床が悲鳴を上げていた。又敷地 別棟に1864年大久保忠尚が設立した公共図書館“磐田文庫”（写真右）が閲覧できた。



遠州鈴ヶ森

“愛宕山”を横目に、三本松の急坂を登っていくと、R1と交わりここが“富士見町”である。当時は此処より“御山”が眺められたのだろうが、周辺に建物が建ち、眺望悪し、周囲の高い所 横断陸橋 に上り眺めたが、黄砂の為か霞んでおり、何も見えない。もう少し先に延ばすか？ 街道左手の小高い丘に、塚があった。江戸時代の処刑場の跡であり、“遠州鈴ヶ森”の碑が建っているが、処刑された人を供養した場所で、実際の刑場は、近くの三本松にあるらしい。“日本左衛門”が晒されたのが有名である。やがて道は R1 から別れ、くだり坂“松並木”の中を R1 に着かず離れず進んでいく。



周辺は新興住宅が立ち並び岩井の交差点から又登り道。この辺りが、“三ヶ野（ミカノ）坂”と呼ばれ古道がひしめき合っている。丁度公会堂の横に石碑があり、それにつられて山中の坂道を下っていったのが、間違いだった。本当は真直ぐ行けば“大日堂古戦場跡”の丘に出るのだが？ やがて山道から抜け出し、幾つ物道が遭遇し、やっとこれが“明治の道”だと知る。ほかに鎌倉大正・江戸の古道があるそう！ R1 沿いの脇街道 “松並木”を眺めながら先に進む。



許禰神社（こね神社＝木原権現社）



三ヶ野橋で、磐田川を渡り、小山の先で、袋井宿の案内板を見つけた、袋井市に入ったのだ。先方の細い脇道・是が本来の東海道・この道を進む。“許禰神社”があり此処には“木原一里塚”の石碑（この辺りは木原一と呼ばれた集落で、徳川と信玄が戦った古戦場跡・家康が腰掛けたと言われる腰掛石がある）しばらく腰掛けて休息し、再び歩き始める。真新しい“木原一里塚”が現れる。しばらく往くと、R1 に合流し、再び排気ガスの洗礼を受けながら、歩きの旅となる。



澤野医院

川井の交差点を 右に進む、本道とは違い車は減ったが、道幅が狭くなる。車に注意しながら、一列で歩く。右手に白ペンキの洋風建築物を見つけた。ここは“澤野医院”で、享保 12 年(1727)より、地域医療活動の拠点であった。建物は 安政元年(1854)の大地震で崩壊したが、順次 再建され 近年まで医療活動をされていたようです。施設は 袋井市に寄贈され、平成 11 年に市指定文化財となり、一般に公開されています。内部の医療設備は、「現在でも使えます」と、係りの人は自慢していました。一寸気になったのは、くみ上げポンプの脇に簡易ろ過装置を置いていた事です。近辺の地下水は“金気”が多く、濾過しないと使い物にならないようです。隣に「どまんなか西小学校」の看板 どこまで“どまん中”を強調したいのか？（本当は 57 の中心は 29 でしょう）



御幸橋

宇刈川畔の桜は 満開だ！ “御幸橋”を渡ると、宿場街です。袂に 宿場公園が「従是袋井宿」と記された棒鼻を再現し、当時の高札場や土塁等を再現し、“秋葉山常夜灯”が移設されている。

袋井宿(27)



“袋井宿”は、江戸・京の 53 宿場の真ん中 26 番目に位置し、他の宿場より 15 年遅れで設置され、本陣 3・脇本陣 0・旅籠屋 50・問屋場 1 で、街並みは、御幸橋より天橋までの短い区間 (0.7km 足らず) だ。日本一小さな宿場町でもある。現在は、当時の面影見つける事は難しい。最も大きな本陣は 田代本陣で東側にあったため“東本陣”と呼ばれていた。跡地を“東本陣公園”(写真)として冠木門等を作り、当時を再現しようとしてた努力は、認められる。



地元では“どまんなか袋井”をキャッチフレーズとして、大々的に 売り出しており、東海道 57 次を確信する我々にとっては一寸気に障る。 町は 小学校にも“どまん中西小学校”なんて 堂々と看板を掲げている。

どまん中茶屋



やがて 宿場の終わり 現在の“どまん中茶屋”(写真左)が見えてきた。昔から袋井宿の東の外れに存在し、初代広重の描いた「袋井出茶屋



乃図」(写真右)をモチーフに再現された茶屋で、市民の憩いの場として、又 旅人の休息の場として利用されている。話によると ボラティアで地元の方々が、年中 湯茶等のもてなしをされているような！ 今日 JR 東海主催の“さわやかウォーキング”が催され、多くの人々が集まっていた。もう昼 茶屋と名が付いていたので、何か食事にありつけると思ってきたが、茶菓子のみ、当てが外れた！ これからの行程 此处で切り上げるべきか 思案のしどころ？ 皆 茶菓子を沢山試食していた。当分 腹も辛抱してくれるであろう。先に進もう！

松並木

茶屋の先 天川畔沿いの桜を見ながら行こうと思うが、念のため 茶屋の伯父さんに聞く。旧東街道は、この先の次の信号を左折し・総合センターの前より右側の細い道・道標に沿って進みなさいとの事。先人に倣い歩き始める。常夜灯の先 広い道と十字交差・歩

道も無い。危ない・100m 位左に、新道路との交差点。ここには信号あり。しかし大きく回り道 誰も見ていない！ ガード・レールも無いので、そのまま突き切った。守ろう交通ルール 旅人に親切に！ その先で R253 へ、しばらく行くと松並木が見えてきた。これが東海道だ。街道には歩道が無い。車をよけて、松の根っこを踏みながら歩く。これでいいのか？疑問を抱きながら前に進む。左手に油山寺に向かう



“追分石標”があった。少し進むと“土塁”（街道の両側に続く帯状の土の高まり）上に



松が植わっている。この辺では片側ではあるが、歩道が完備していた。“久津部一里塚”（南塚）（写真左）は「袋井どまん中東小学校」の中にあるらしいが、何年か前の開校〇〇年記念行事で街道筋に復元されたのが今も見られる。その隣に、日蓮上人の両親の墓がある“妙日寺”（写



真右）を見ながらしばらく歩いた。大日本紙工業の前に、愛野の指標文字を見る。これから掛川までは相当な距離、明日の事を考えて、近場の停車場に向かう事にする。

お着き JR 愛野駅

近くと言っても、街道から 1.5km くらいある。結構の距離だ。バスは無い、歩くのみ。田んぼの中を新幹線に向いて、歩くそこには線路があるから！ 東海道線と新幹線が背中合わせ、“愛野”の駅は、2002 年ワールドカップ開催に先立ち、“横浜スタジアム”の、最寄り駅として開設され、新しいモダンであるが建屋が高い。そう 土盛りをして新幹線を走らせ、その上に越線橋上に駅がある。この辺は、未だ開発中で新しい家が次々と建設されている。近所には小笠山総合運動公園・エコバスタジアムや静岡理工大等があり、乗降客も多いのだろう。駅で電車を待つ。向かいの新幹線が轟音を上げ通過する。時に 14 時 00 分。 歩数 22,705 歩 よく歩いた。



磐田駅に到着する。駅前の駐車場まで歩く、人出が増えている？ ガンバとの試合 2 時キックオフ。混まないうちに、出来るだけ大阪に近づきたい。食事は高速の SA で取ろう！ 時間を大切に！ 帰路に着く。高速道の案内では、渋滞が発生しそうだ。昼食は浜松で？ よりもっと先の SA で・・・結局“刈谷オアシス”まで来てしまった。遅い昼食 取り合えず満腹・人心地が回復！路銀の精算をし、土産も買った！17 時丁度 帰路に着く。毎度の事ながら、藤井さんの運転 途中で代わろうか？ カーナビに、惑わされずに、旨く 新名神に乗れた。今回は混雑に会わずに帰そう。巨椋で R1 に、我が家の裏で、降ろしてもらおう。藤井さん 又無理をして一人運転、帰宅は、19 時 30 分 入浴する。テレビでは、土佐の勤皇党が 大阪まで来ている、竜馬も大阪だ。やがて 京・江戸へ向かうだろう。急がねば！

翌日の新聞では入場者 10603 人 4 対 3 でガンバが負けていた！意気地なし！頑張れガンバ！

（おわり）